令和８年度　第１回
北海道立総合博物館協議会

議 事 録

日時：令和８年 10 月７日（水）　14 時 00 分開会

場所：北海道博物館　講堂

令和８年度　第１回北海道立総合博物館協議会議事録

会議名	令和８年度　第１回北海道立総合博物館協議会
開催日時	令和８年 10 月７日（水）14 時 00 分～15 時 30 分
開催場所	北海道博物館　講堂
出席者	【委員】 佐々木史郎委員（会長）、住吉徳文委員 オンライン出席：岡田真弓委員 以上３名出席（欠席：小川哲也委員（副会長）、小林快次委員、村木美幸委員、矢野ひろ委員） 【事務局】 荒川裕生北海道博物館長、菅井信宏北海道博物館副館長ほか
傍聴者	０名
議　題	〈報告事項〉 （１）令和８年度（４～９月）における当館の動向について （２）令和７年度第１回協議会でいただいた主な意見と今後の対応について 〈審議事項〉 （３）令和７年度評価について

・内容に応じて≪質疑応答・意見≫等の見出しを便宜的に作成した。

● 開会

● 館長あいさつ

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、また、岡田先生におかれても大変な中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

今日は、北海道立総合博物館協議会、今年度第1回目の協議会でございます。

前回3月に行いました協議会では、大変ご熱心なご議論をいただきまして、いただいた多くのご意見、ご指摘を踏まえて、私どもとしても取り組んだ経過もございますので、今日のご議論の中で、ご説明し、また、ご意見を伺えれば幸いでございます。

北海道博物館の最近の状況でございますけれども、一部報道もございますが、去る9月19日に、開館以来の総合展示の入場者数が、累計100万人突破ということで、1つの大きな節目に達したところでございます。

これまで足を運んでくださった皆様をはじめとしまして、多くの方のお支えがあって、ここまで来たのかなと思っておりますので、改めて、皆様に感謝を申し上げたいと考えております。

今年の特別展につきましては、沙流川流域のアイヌの方々の工芸品を扱うということで、その背景にある、人々の暮らしとか歴史、こういったものまで含めた、展示ができまして、非常によい展示であったと思っております。

若干、入り込み数がよくなかったので、この辺は、展示はよかったのですけども、私どもとしては、これから、さらに生かすべき課題もあるのかなと感じたところでございます。

また、9月30日、10月1日と、北海道博物館協会主催の、博物館大会が釧路でございました。

いろいろな事例報告などがあったのですけれども、それぞれの地域で、頑張っておられる学芸員の方もたくさんおられて、また、課題を抱えながら一生懸命やっておられる姿も拝見しまして、北海道博物館というものは、北海道全体の博物館活動において、果たすべき役割が大きいのかな、といったことを感じたところでございます。

あと、全国的な動きでありますけれども、3月に、国におきまして、博物館の設置及び運営上の望ましい基準というものが改正されたところでございます。

収蔵品の廃棄など、大変注目が集まったわけですけれども、改正された基準におきましては、博物館資料のデジタルアーカイブですとか、多言語による情報の提供といった、博物館に求められる新しい役割などについても定められたところでございます。

当館といたしましても、北海道の中核的博物館という位置付けも踏まえつつ、また、3月には登録博物館にもなりましたので、そういった中で、第3期中期目標に定めました事業計画を着実に実行するということを通じまして、新たな基準に定められた役割についても、果たしてまいりたいと考えているところでございます。

本日は、第3期中期目標・計画の初年度となります令和7年度の事業につきまして、取りまとめました自己点検と評価結果をご説明いたしたいと存じます。

本日の会議の開催に当たりましては、前回の協議会で、いただいた様々なご意見を踏まえまして、審議の資料を事前にお送りさせていただいて、目を通していただいた上で、今日のご議論に、ということで、段取りをしたところでございます。

委員の皆様におかれましては、指標の達成状況をご確認いただきますとともに、新たに挑戦した取り組み、あるいは、他機関との連携といったことも含めまして、当館の事業効果を高めるために取り組んだ事項につきましても、ご助言、ご審議いただければ、大変ありがたいと思っているところでございます。

それでは、限られた時間でございますけれども、忌憚のないご意見をいただきますよう、会長はじめよろしくお願いいたします。以上でございます。

● **議題**

佐々木会長：

皆さんイランカラプテ。それでは、早速議事に入っていきたいと思いますが、その前に、本会議の公開・非公開の取り扱いについて、私が会議に諮って決定することになっておりますが、公開ということでお諮りしたいと思いますが、委員の皆様、ご異議はございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

（異議なし）

それでは、公開ということで、決めさせていただきます。

今回の議事の進め方ですが、次第のとおり、報告事項が 2 件、審議事項が 1 件用意されています。事務局の方から、次第に沿って説明を受けた後、各委員から、ご質問、ご意見をお受けしたいと思います。

報告事項１　令和 8 年度（4～9 月）における当館の動向について

（事務局（菅井副館長）から「資料１：令和 8 年度（4～9 月）における当館の動向について」を説明）

佐々木会長：

この報告につきまして、委員の皆様から何かご質問、あるいは、コメント等ございますでしょうか。私の方から、1 つお伺いしたいのですけども、この 27 回の企画テーマ展、それと、12 回特別展、それぞれ観客数は、どのぐらいだったのかお聞かせいただきたいと思います。

事務局（山口総務部長）：

4 月から開催した樺太連盟資料展は、9 千数百人と記憶しています。7 月から開催した特別展は 8 千４百人台となっております。

佐々木会長：

ありがとうございます。想定の数字、予定とかは、どうであったのでしょうか。

事務局（山口総務部長）：

計画上、特別展示室の利用者数の目標値というのは確かにあるのですけれども、個々の展示会についての目標値はありません。ですが現状は、このくらいは入ってほしいという想定より、下回っている状況です。

住吉委員：

来場者数は、把握されていると思うのですが、想定されたよりも、お客様が少なかったというところの、なぜかというところも含めて、振り返っていただければと思います。

岡田委員：

今、ご報告いただきました令和 8 年度の動向につきましては、全体を通して、計画上の位置付けを見ましても、バランスよく実施されているなという印象を受けました。

また、全国樺太連盟の資料展ですとか、あと、沙流川に生きるーサルンクルの近代という、モノを通じて、歴史と今日との関係を考えるといった、非常に骨太の内容が、私としては印象に残っております。私自身も第 12 回の特別展を拝見し、非常に感銘を受けましたし、同行者からも、工芸品が作られた時代に生きたアイヌの姿と声を浮き彫りにした重厚な展示という感想を聞いております。

今回、来場者数の方が目標値に達していないということには、驚いてはいるのですけれども、足を運んでいただいた方の満足度が高いというところは、非常に前向きに捉えています。その一歩手前の足を運んでいただくところの工夫を、何か一緒に考えていけるといいのかなと思いながら伺っておりました。

事務局（三浦学芸部長）：

ここ近年、先ほど目標値という話がありましたけれども、歴史系の特別展で単独開催に近い形でいうと、昨年が１万２千人くらいで、そういう意味では、今年は、下回っているとは思うのですけども、今後、どう足を運んでいただくか、といった部分を含めて、検討して、振り返りをしていければいいかなと思います。

荒川館長：

岡田委員から、大変ありがたいご意見をいただきましてありがとうございます。

冒頭のご挨拶で申し上げましたように、特に特別展の内容として、私は誇っていいのかなと思っておりますので、この内容の充実とは、また別の次元で、広報であるとかですね、どのように訴えかけていくか、また、今後、私どもとして、振り返り、検証していかなくてはならないのかなと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

佐々木会長：

特に、先日終了した特別展は、図録をみたところすごく重厚な展示になっていて、やはり多くの人に見てもらいたいなという感じ、内容が充実しているからこそ、やはり広報にも力入れて、なるべく多くの方に来ていただくという努力がされた方がいいかなと感じました。

図録は、とても充実して、あれは素晴らしいと思います。

報告事項２　令和７年度第１回協議会でいただいた主な意見と今後の対応について
（事務局（菅井副館長）から「資料２：令和７年度第１回協議会でいただいた主な意見と今後の対応について」を説明）

佐々木会長：

各委員の方で、皆さんがおっしゃられたことに対して、きちんとした対応といいますか、その確認はさせていただきたいと思います。

住吉委員：

特に指摘することはないので、急いでやっていただければというふうに思いますので、よろしくお願いします。

岡田委員：

前回の協議会は、私自身は欠席してしまったため、資料から、皆様の意見を拝見するという形になるのですけれども、今後の対応案で、意見に対しては、お答えいただいてると受け取りました。ありがとうございます。

佐々木会長：

皆さんから好意的なリアクションがありましたが、私もしっかり対応されていると思いますので、このペースで、しっかり、対応していってほしいと思います。

特に、中期目標のあり方ですね、小林委員がおっしゃった、職員はオーバーワークになりがち。

これは、常に留意して、職員の皆さんに無理がかからない形で進めていただければと思います。

それと、やはりそうですね。プラス、攻めのメッセージですね、このあたり、非常に重要なポイントになりますので、やはりこの博物館、メリット、長所をかたちにしていただければと思います。続きまして、審議事項の方に入っていきたいと思います。

審議事項３　令和７年度評価について
（事務局（鈴木企画課主幹）から「資料 3-1 令和 7 年度評価の進め方、3-2：令和 7 年度評価（自己点検評価）等について説明）

佐々木会長：

以上の説明に関しまして、委員の方からのご意見を伺いたいと思います。

住吉委員：

拝見していて、取組の数が多いというか、いろいろな課題に積極的に取り組んでいこうという、皆さんの意欲があって、それに１つ１つ、取り組んでいらっしゃっているというところをよく拝見させていただきました。

1 点だけ、申し上げさせていただくと、例えば、最初のところの、ウェブサイトの収蔵資料の検索ページでの新規公開数という目標に対して、ご事情があったということで、ここにあるのですけれども、全く手がついていない、進捗していないというところがあり、他のところでもＣという評価があって、これらに対して、7 年度はできなかったけれども、8 年度以降は、どうリカバリーしていくのか。あるいは、やっていく中で、計画を立てた中で、緊急度や重要度というのでしょうかね、すぐに取り組まなければいけないこととか、大事なこと、あと日々、取り組んでいかなければいけない中で、後回しになってしまうであるとか、取り組まなくても、現状に影響ないというものもあると思うのですよね。

ついつい、先送りになってしまったりして、いろいろな事情があって、一生懸命、人手が足りない、予算が足りない、という事情もあるとは思うのですが、そこは、致し方ない部分もあるのですけども、そこを、仕方がないのではなくて、達成してないところを今後どうしていくのか、ここのところをきちっと振り返った中で、次の年の計画予定に、優先順位を高めて、重点的に手当するであるとか、振り返りをして組み立て直していくということが、なされていらっしゃるのかどうかということだと思うのですよね。

まだ、初年度の評価なので、5 年間の中できちっと取組みをして、中期計画の中で、達成していければいいかと思っております。

ただ、私自身の経験でもあるものですから、本当に大切だと思っていて、緊急ではないのだけども、重要度が高いものと思ったら、それを是非、上の方に引っ張り上げていっていただいて、どうして駄目であったのか、それでは、そのボトルネックをどう、取ってあげたらいいのかということを、是非やっていっていただければと思います。

特に、前年度が終わって、令和８年度は、もう、半年経っているわけです。

最終評価は、来年の２月、1 年後という、そういう時間サイクルの中で、止まってるのは、これはシステムとして仕方がない時間軸の中で回っていらっしゃるので、これをどうこうと言っても仕方ない部分もあるのですけども、そういうサイクルの中で、物事が流れているので、なおさらですね、それを遅らせてしまうと、ずるずると、できなくなっていくのかなと思っています。

長くなって恐縮なのですが、やはり計画を立てるときに、これは重要、これはやらなくてはいけないということで、目標、計画を立てられて、目標設定されていると思うので、是非、それが実現できるように、どうやったらいいのかということをしっかり、一緒に考えていければいいかなと思いました。

岡田委員：

総括表のほか、詳細な自己点検の表がまとめられていてですね、緻密に評価がなされたという印象を受けました。

私からは、個別の部分について、コメントがあります。この計画の中にも、ＤＸの事業のことがありまして、おそらく、その中には、貴館が所蔵されているアイヌ民族関係の資料も含まれると拝察します。アイヌに限らず、個人情報に関わるような、あるいは、法律的には抵触しないがご遺族等への配慮を要する資料もあるかと思いますので、例えば、そうした要配慮資料のＤＸ化に関する議論―今後の整理・公開―についてもされていくのかなというように推察いたしました。

道内の博物館・資料館・図書館でも同様の課題に向き合っているところもあると思いますので、是非、上記の検討過程で見いだされた論点などを共有をしていけるような機会を検討いただきたい。道内の博物館としての社会的貢献というところでも、非常に大きな役割を果たしていただけるかということを、お話を聞きながら思いました。

事務局（櫻井展示・資料課長）

ご意見くださいまして、ありがとうございます。

デジタルアーカイブというのは、進みが遅れているところで、今、ご指摘いただいたことは、その通りだと思っております。

まだまだ、私どものデジタルアーカイブの取組みは、発展途上なので、著作権であるとか、肖像権に問題のないような資料の公開を、できるものから優先的に進めるということをしてまいりました。

ただ、どうしても、肖像権などに配慮が必要なもの、人権に配慮が必要なもの、そうした資料をどのように、どのような基準を設けて、公開をし、利用に供していくかということは、正直、これからの課題として考えているところでございます。

私どもは、こうしているというものをきちんと作り、それを、お互いに共有し合えるように、努力してまいりたいと思います。

岡田委員：

評価領域に盛り込むのが難しい内容だとは思うのですけれども、そういった、今後のアーカイブ化の展開を検討される際の論点整理や解決策の検討自体、非常に社会的な意義が高いことだと思いますし、そうしたものが、道内各地の博物館や資料館、図書館と共有した動きが将来的にできると、非常によいと思いました。

佐々木会長：

データをデジタル化していただいて、公開していただけると、利用者としては、非常に利便性が高くて、ありがたい話なのですが、時々見ていると、ここまで公開してよいのかなという、危惧する場合もあります。私も、最近、古い写真に関して、判断をしてくれと言われたケースがありまして、扱っている写真が 1960 年代、70 年代、80 年代と、結構新しい写真で、今ご存命の方々も、結構写っていたりするのですね。そういった写真を、どうやって公開・非公開を決めるか。

いろいろな基準を付け、それぞれプラスマイナスを点数を付けて、総合点で、これをクリアしたものを公開するといったかたちで、やっていたような気がします。

ただ、その基準も写真の性格によって違いますので、きめ細かく設定していって判断していくしかないと。ですから、結局、時間がかかるのです。

この、公開データベースの資料登録点数の話なのですが、先ほど住吉委員がおっしゃったように、大変だから、また、人的パワーが足りないからと言って、飛ばしていくと、結局何もやらないまま、ゼロ更新で終わってしまうのですよね。

こちらの目標をちょっと拝見しても、一応、収蔵資料検索データベース、5 年間で 3,600 点。それから新規登録件数は、5 年間で 2,000 という目標が設けられているのですが、令和 7 年度の計画を見ますと、5 年間の全体で見ると非常に心配します。このペースで、大丈夫かという。

やはり、こういうものは、計画的に、そして、段階的にきちんと進めていかないと、どうしても終わるものではない。

ある時、一気にバーッと進めてやろうと思っても、人的パワー、それから時間もないという事情があって、やはり、毎年、少しずつ、きちんと計画を達成していかないと進まないものなので、いろいろ方策を考えなければいけないと思うのですけども、あと、お金もかかると思います。

きちんと計画通り進めようとすると、予算措置も含めてですね、やはり、計画を、きちんとクリアするようなかたちで、毎年進めていくのがいいのではないかと思います。

あと、それから、展示のことについて、先ほど人数のことを申し上げましたが、何を目的とした展示であるとか、この特別展が何を目的にしていたのかということを、きちっと明確にして、その目的が達成できているかどうか。ですから、数字も、観客動員数だけではなくて、例えば、満足度であったり。

それから、展示内容ですね。専門家、学術的な評価もありますし、そういった方々の意見も含めたかたちで、総合的に展示というのは考えていく。そういった評価をしないと、展示の本当の価値は、出てこないのではないかなということで、そのあたりは決めておかないと、と思っております。

あと、そうですね、研究、教育普及に関しては概ね目標が達成されているということですので、これは、このペースで、お願いいたしますとしか言いようがないところですので、内容的には、問題ないと思います。

あと、評価のこの見方ですね、きちんと数値を決めまして、何%、何%というかたちで、ＡＢＣランクを作って、フレームが、きちっとできていますので、総体で非常にわかりやすい評価表になっております。

プラスの表示なのですが、これは、重点目標であったり、その他の実績が加わっていることに対してプラスと付けているのですね。これは、新しい取組について、付いているという理解でよいですね。

事務局（山口総務部長）：

はい。

佐々木会長：

あと、これは、令和 7 年度の評価として、次の協議会において、案を固めるというそういったスケジュールですか。

事務局（山口総務部長）：

おっしゃる通りでございます。資料 3－3 は協議会としての評価を取りまとめる際の様式のイメージです。本日いただいた、各事業の成果や課題、改善の進め方などに関するご意見は、下段の「個別事業に対する意見など」の欄に整理することを考えています。その上で、おそらく来年2月頃に開催する第2回目の協議会において、最終的に令和7年度全体について総評をいただき、上段の「評価（総評）」の欄に記載いただく、というスケジュール感を考えています。

佐々木会長：

来年の 2 月に総評を出すが、令和 7 年度の評価のフィードバック時期についてはどうなるのでしょう。つまり、令和 9 年度の事業にフィードバックできるのか。

事務局（山口総務部長）

本日の協議会でいただいたご意見については、すぐに対応できるものについては、2 月の総評を待たず対応できるものから反映していきたいと考えております。

これから道庁の予算要求が始まる時期ですので、来年度の予算要求に間に合うものは予算要求に反映し、人的なものであれば人事異動などいろいろな対応手段を検討して参ります。

一方、そもそも協議会にお諮りして、ご意見・ご提言をいただくような課題というのは、すぐ解決できるもの、というより、もっと重たい課題が多く、これは、計画を見直したり、新規事業の構築を検討する必要があるなど、時間を要するものが多いと考えております。

2 月に評価を取りまとめていただいた後に、さらに具体的な検討やルールの見直しなどの必要がある場合は、令和 9 年 4 月から直ちに反映することが難しいものもあると考えております。

荒川館長：

先ほどいただいたデータベースに関するご意見においても、今回、いただいた意見も含めて、できるだけ早く、反映していくことということで、進めさせていただけるのかなと思います。

佐々木会長：

それでは、こちらの審議事項に関して、まだ他に何かご意見等ありますでしょうか。

岡田委員：

調査研究のところが、目標を既に超えられているということですし、また、社会的にも非常にインパクトのある研究成果が出されているというところが、非常に素晴らしいなと思います。

博物館業務に加えて、個人の皆様方の研究に対する真摯な姿勢というものが、伝わってくるなという個人的な印象でありました。

住吉委員：

細かい話で大変恐縮なのですが、大きく 2 つ、感じているところがありまして、1 つは、度々議論にも出てくるのですけども、広報活動というのかな。すごく良いコンテンツの展示を考えられて、それを実現する労力をかけられて、汗をかかれて、やられていると思うのですけど、中身は一番大事で、先ほど会長がおっしゃられたように、その目的であるとか、誰に対してか、ということが非常に重要だと思うのです。

でも、やはり、それがきちっと多くの方に見ていただいて、理解していただくということがあってこそが、トータルの成果だと思うのですよね。

多くの人に見ていただくことが、喜びというかですね、私、どうしても企業の人間として、メーカーとして、新製品を出そうと言ったときに、いっぱい作るわけですよね。開発者があって、試行錯誤しながら。良いものができたとしても、売れなければ、すっと消えてしまっていく。

新製品は、いっぱいあるが、本当に売れているものは、皆さんの目に留まって、長く生き残っている商品は、一部の商品ですよね。

皆さん、良いものを作ろうと思って、作り出しています。でも、結局は、企業の場合は、それが売れなければ、自己満足で終わってしまう。

同じこととして、例えてしまうと大変僭越かもしれないのですが、どうやって多くの方に、展示を見てもらうか、あるいは、来館していただけるか、ということが重要だと思う。今回、外部要因というか、相手方の要因で来られなかったというのがあるのですけども、相手方の理由で、自分達が思っていることが実現できないということは、致し方がないことかも知れないのですけども、それでも致し方がないと思ってしまうのは、非常に残念だなと思うのですよね。

それと、もう 1 つ細かいところでは、このウェブサイトのところは、いろいろな項目に重なっ

てきているところで、これが実現できてないところが、令和７年度にはあるので、どうしてなのかなと思ってしまうのですよね。

だから、重要度なのか、リソースの問題なのか、難しさというところも、先ほどおっしゃられていましたけど、そういうものも含めて、是非、前に進めていただければなと思います。以上です。

岡田委員：

大きく印象に残ったことで、１つ。冒頭でご紹介いただいた今年度の活動は、非常に、企画であるとか、コンテンツの満足度が高く、十分なものであったときに、その評価の指標があっても、人数での評価は、それが一番わかりやすいが、何か勿体ないかなという印象はありました。

まずは、ターゲットですね。企画段階での想定来館者層、展示期間中の想定来館者層の割合、満足度などを評価できれば、個々の企画が持つ社会的な意義にも影響を与えるのかなと思いました。

また、想定来館者層への広報の仕方は大事だと思いました。

これはもちろん、博物館だけでなく、いろいろな組織が直面しているところだとは思うのですけれども、私の個人的な体験でも、最近のご家族は、土日の予定の決め方を、インスタグラム等のSNSからいろいろな人の行動を見たり情報を得たりして決める、みたいなことも聞いています。広報のところでは、専門的に学んだり、専門家の助言を得ながら戦略を練っていくということが必要なのかなと思いました。

佐々木会長：

私の方から、特別に何かあるわけではないのですが、アイヌ民族文化の活動を、きちっと活性化していただくという、これに関しては、専門部会がありますので、そちらの方で十分議論していただいて、活動の質を上げていただくということになればいいかなと思います。

国立博物館の方でも、私の方でも、お手伝いできるところは、協力してやっていきたいですし、いろいろ、こちらの方もご協力をお願いすることもあるかと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の議題はほぼ終わりましたので、そろそろ、議長を事務局の方にお渡しします。よろしくお願いいたします。

●閉会

荒川館長：

一言だけお礼申し上げます。大変お忙しい中、ありがとうございました。そして、今日は、まとめに向けて、有用な意見もございましたし、私からすると、次の中期計画で考えるべき論点も含まれていたのかなと思いますので、様々な観点から、これからまた、ご指導いただければありがたいと存じます。どうもありがとうございました。

事務局（総務部長）：

それでは以上をもちまして令和８年度第１回北海道立総合博物館協議会を閉会したいと思います。

本日は長時間にわたりご審議いただき、誠にありがとうございました。